

〈焦点1〉

当事者を支える重要他者としての専門家・家族の役割

安酸史子* 仲尾唯治**

*関西医科大学看護学部基盤看護分野看護学教育領域教授

**本学会顧問, AIDS & Society 研究会議監事

The Role of Professionals and Family Members as Significant Others who Support “Tojisha”

Fumiko Yasukata* Tadaharu Nakao**

* Professor, Faculty of Nursing, Kansai Medical University

** Advisor, the Japan Academy for Health Behavioral, Auditor, the Japan AIDS & Society Association Science

キーワード

当事者	tojisha
重要他者	significant others
専門家役割	professionals role
家族役割	family role

これまでの医療者への教育では、専門家として当事者に巻き込まれることは良くないとされてきました。あくまでも専門家としての視点に立ち、患者である当事者を医療者が考える正しい道に上手に誘導すべきであるという考え方が主流だった。

シンポジウム I では、シンポジストとして血友病と HIV で亡くなった息子さんのご家族の立場から杉山千波氏（大阪 HIV 薬害訴訟原告団理事, NPO 法人ネットワーク医療と人権 遺族担当相談員）にその貴重な経験を語っていただき、専門家（看護師）の立場から寺口淳子氏（京都福祉サービス協会訪問看護ステーションばあとなあず南, メモリアル・キ

ルト・ジャパン代表, AIDS & Society 研究会議理事）に AIDS で亡くなった人の存在を 1 枚の布に表したメモリアルキルトの活動について語っていただいた。また武田飛呂城氏の主治医である岡 慎一先生（国立国際医療研究センター, センター長）からは、ビデオメッセージをいただいた。

患者である当事者にとって、病気とともに生きていく（Living with ○○ disease）ためには、重要他者である専門家・家族・友人がどのような役割を担うのが、良いのかという正解はないが、いま一度真剣に考える機会になればと思い、このシンポジウムを企画した。